イエスは神

イエスは神です。イエスは永遠に神なる父と同格です。彼は私たちの罪の身代わりとなって死ぬために人間となられましたが、常に神であることには変わりありません。

> **「トマスは答えてイエスに言った。『わが主よ。わが神よ。』イエスは彼に言われた。『あなたは私を見たから信じたのですか。見ないで信じる者は幸いです。』」 (ヨハネ伝20章28ー29節)**

(参照聖句、ヨハネ伝1:1、8:58、10:30;第1テモテ3:16;テトス2:13;コロサイ人2:2;ヘブル人1:8)

イエスの神性を否定する者は皆、永遠にとがめられます。イエスは次のように言っています。

> **「あなたがたが来たのは下からであり、私が来たのは上からです。あなたがたはこの世の者であり、私はこの世の者ではありません。だから私は、あなたがたは自分の罪のうちに死ぬであろうと言ったのです。もしあなたがたは私のことを信じなければ、あなたがたは自分の罪のうちに死ぬのです。」 (ヨハネ伝8章23ー24節)**

(参照聖句、ヨハネ伝11:25 - 27、20:31;使徒行伝9:20、16:30 - 31;第1ヨハネ5:13)

どうして神は人となられたのでしょうか。

5ページの所で学んだように、神は永遠に神聖でどんなに小さな罪でも神を永遠に傷付けるのです。それ故、どのような罪にもその代価を要求されるのです。この代価を支払うのに二つの方法があります。一つは、本来有限である人間自ら神の怒りを永遠に受け続けること。もう一つは、永遠なお方が有限なこの世の人に代わって神の怒りを、一度だけ受けることです。どちらの方法も罪に対する支払いは完全になされます。

1. 有限である人間が自分の罪の支払いをするとしたら、神の怒りを永遠に受け続けなければなりません。だから地獄は永遠なのです。

2. 無限な神が人となったイエスが、人間の罪に対する無限な支払いをするため、神の怒りを受けられることです。イエスは神である故、十字架の上で無限に神の怒りをこうむった意味があります。イエスの死は、すべての時代のどの人にも適応する罪の代価を完全無欠に支払って下さいました。

この完全無欠の支払いは、すべての人の罪になされました。しかし神は私たちに二つの方法のどちらを選ぶ自由を与えております。それはイエス・キリストか永遠の裁きである地獄かです。

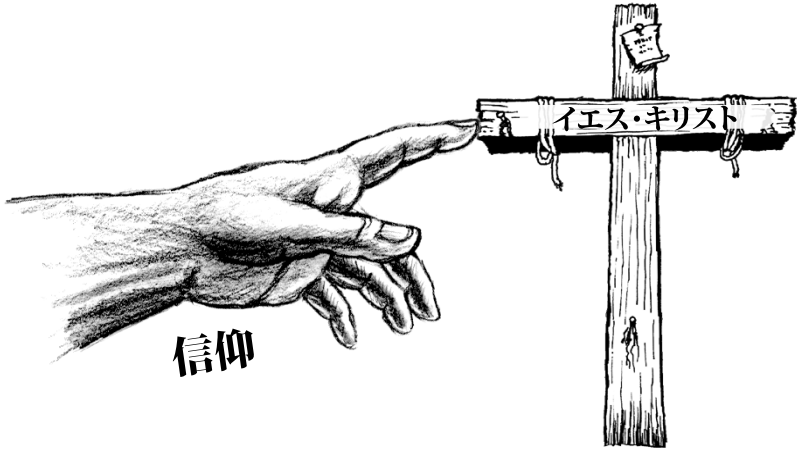
信仰：人のキリストへの応答

イエスは人を罪から救うため、すべての業をまっとうしました。しかし、キリストの十字架の死によって完成された救いの恩恵にあずかるには、イエスの犠牲の死による救いのみ業と、そのイエスを心から信じることが必要です。

> **「人は律法の行ないによっては義と認められず、ただイエス・キリストを信じる信仰によって義と認められることを知ったので、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。それは、律法の行ないによるのではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行ないによって義と認められる者は、ひとりもいないからです。」 (ガラテヤ人2章16節)**

> **「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者が、ひとりも滅びないで永遠の命を得るためです。」 (ヨハネ伝3章16節)**

(新約聖書には、永遠の命を得る唯一の条件は、イエスを信じる信仰であると160箇所以上にもわたって述べられています。その代表聖句は、ヨハネ伝1:7、12;3:18;5:24;6:29などです。)



信仰(信じること)は、私たちの手にたとえられるかもしれません。それは、イエス・キリストの内に宿る永遠の命を、いただこうと差し延べる手のようなものです。

> **「この世が自分の知恵によって神を認めることがないのは、神の知恵によるのです。そこで神が宣教のことばの愚かさによって、信じる者を救うことはみこころにかなっています。」 (第1コリント人1章21節)**